

アキアミの生活史

岡山県におけるアキアミ漁業は、主に10～12月の間、児島湾周辺海域で営まれている。今年も10月1日から操業が開始され、漁業者からは「まずまずの出だし」との声を耳にしており、豊漁を期待したい。当所では昨年度から児島湾で本種の資源生態調査を行っており、アキアミの生活史について少し紹介したい。

アキアミ雌の成熟個体の出現と体長組成の推移を図1に示した。5月の個体は前年の秋に生まれた越冬個体であるが、6～7月にかけて成長・成熟し、産卵する。秋に店頭で目にするものは体長10～20mm程であるが、この越冬個体は35mmにまで成長する。一見すると、両者が同じアキアミとは思われず、越冬個体は岡山郷土料理の「あみ大根」には少し不向きかもしれない。

また、7月になると体長8～16mmの小型個体が出現するが、これは越冬個体から産まれた新しい世代である。この世代の成長・成熟は早く、7月下旬～9月中旬の間、常に成熟個体と未成熟個体が混在し、産卵後に死滅し、再生産された新規加入個体が成熟し産卵する。10月には一転して成熟個体は皆無となり、晩秋にかけて成長する。その後、冬には成長は停止し、越冬後、翌年の初夏に再び新たな世代を産出する。

本種の産卵期は6月上旬～9月中旬の長期にわたるが、この間の再生産の出来不出来が秋の漁獲の豊凶を左右すると考えられる。その要因の解明に向けて努力していきたい。

(資源増殖室：弘奥)

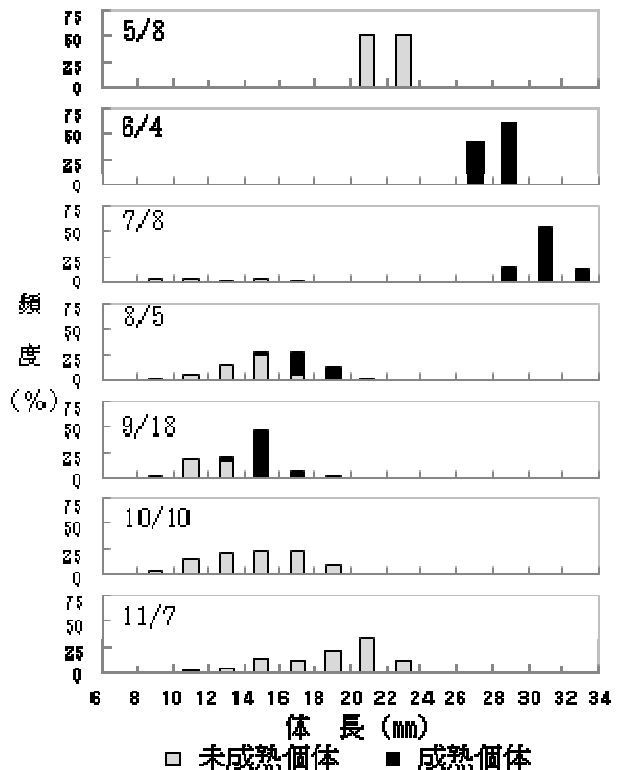


図1 アキアミ雌の成熟個体の出現と体長組成の推移



写真 アキアミ：越冬後（上段），越冬前（下段）